

第73号

2022年8月10日発行

オリガミアンだより



子どもたちとの交流楽しむ



コロナ第7波の猛威、熱中症、それに数十年に一度というような規模の豪雨。連日のニュースを見ていて「夏休み工作塾の開催は無理だろう」と何度、思ったことだろう。「子どもたちの喜ぶ顔が見たい」との一心でクラブぐるみ準備を進めてきたが、8月6日、しあわせの村研修館でついに報われた。

【イベントに向けての姿勢】

クラブでいつも通りやっていることと同じ姿勢で臨んだ。単に折り紙を体験するだけでなく、折り紙に興味を持てるように工夫した。既に折り紙に親しんでいる子どもには技術の向上が出来るようさりげなく誘導した。

いずれにしても家に帰ってから作品を最後まで仕上げられることが極めて大事だ。指導を中途半端で終わるとその場で嫌気が差してしまうことだって十分あり得る。指導時、折り図を配布したのもこのためだ。

【子どもたち】

イベントに参加したのは8クラブで計120人。オリガミアンには24人の申し込みがあったが、他クラブの実技が長引いたり、天候の都合で休んだりして結局21人が折り紙に挑戦した。うち男子は8人だった。中には折り図を読み解きながら作り上げていく低学年の男子もいて驚くやら感心するやら。

【お化けを知らない】

工作塾でテーマに取り上げたのは、ペンギン、ワンピース、ハート、サンタに加え「一つ目小僧」と「ちょうちんおばけ」の6点。これらを展示して好きなものを選んでもらった。

ペンギンを指名する子が圧倒的に多いので「お化けをやる？」と勧める大半がきょとんとした表情。「目が一つだから人間じゃあないよね」とヒントを言っても表情は全く変わらなかった。現代っ子は怪獣とは遊ぶが、日本のお化けは知らないようだ。

【おみやげの“福袋”】

講座を無事完了した子どもには、ペンギンを使った遊びを披露するとともに、折り紙のおみやげがたっぷり入った記念の“福袋”をプレゼントした。会員・吉都紀さん特製で中にはペンギン3個、これに立てる飴、鉛筆やワンピースなど盛りだくさんの折り紙を入れた。思わぬサプライズに子どもたちは大喜び。指導を終えたある会員の陰の声。「いろいろ気づきがあって楽しかった。本当はもっと教えたかったのに」ですって。



オリガミアンから指導者として参加した4人

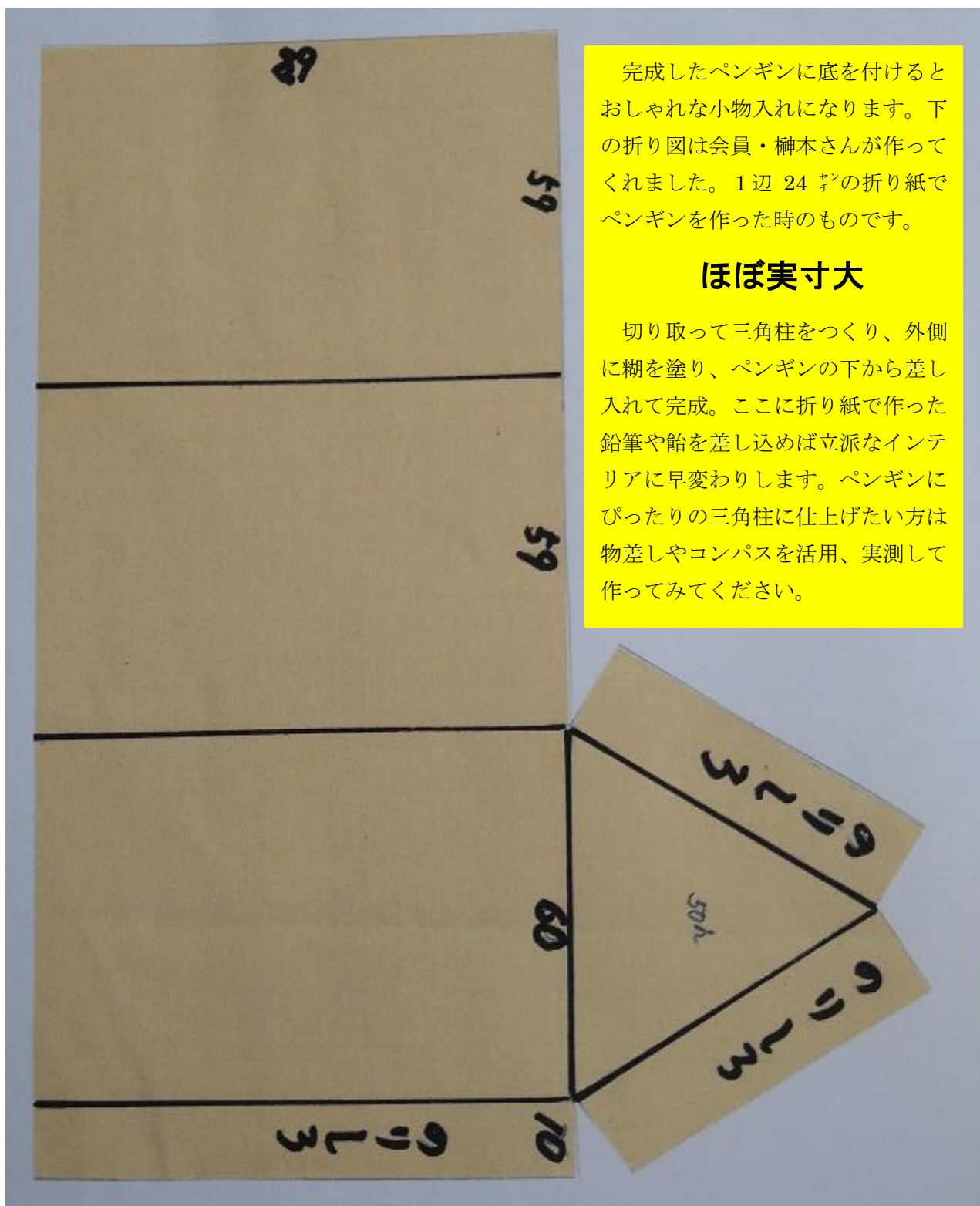


ペンギン ⇒ 小物入れ

完成したペンギンに底を付けるとおしゃれな小物入れになります。下の折り図は会員・榊本さんが作ってくれました。1辺 24 ㌢の折り紙でペンギンを作った時のものです。

ほぼ実寸大

切り取って三角柱をつくり、外側に糊を塗り、ペンギンの下から差し入れて完成。ここに折り紙で作った鉛筆や鉛を差し込めば立派なインテリアに早変わりします。ペンギンにぴったりの三角柱に仕上げたい方は物差しやコンパスを活用、実測して作ってください。



北須磨文化センター(須磨区)では夏休み中、「おりがみの樹」を作って子どもたちが本に親しめるよう工夫をしています。この樹で羽を休めている2羽を紹介。折り紙のハシビロコウはどこかNHK「チョコちゃんに叱られる」のキョエちゃんに似ていますね。フクロウの貼り絵も見事!!

編集：オリガミアン代表 熊谷信哉